

一茶の句とジプリランド

…大根引き大根で道を教えけり…

寒くなり糖度を高め旨みを増した白い大根を引き抜いた。その引き抜いた瞬間に、小林一茶のこの俳句が浮かんだ。あの時代の大根畑のある長閑な風景が浮かんで心 and だ。引き抜いた大根で「あっち」と教えている姿も浮かんだ。序でに、大根のレシピも聞いてみたら良かったね。

…一茶から学ぶ大根江戸の食…

…大根が話広げし過去未来…

なんと、千と千尋の神隠しのおしら様は大根の神様とか。さらに探ると、見た目が大根そっくりな白い神様だとか。

…大根が思い出繋ぐジプリパーク…

大根引き、今度は「ジプリの世界を教えけり」となった。折しも、愛知・ジプリパークを訪問する機会を得ていた。ジプリパークでは大根の神様おしら様が設置されている。

…年の差のジプリ音痴や薄紅葉…

江戸の大根をジプリの世界へ大飛躍させてしまった私。実は、ジプリの世界をそれほど詳しくない世代である。至ドンドコ森・石柱上にどんぐりがある訳も無知な私。笹の葉・リュウノヒゲで縛った包みの事も教えられた。

…石柱の上のどんぐりトトロ用…

お陰で、ジプリパークを訪れちょっぴり知識が増えた。一茶の句に誘導され、トトロはどんぐりが好物と知る。

…大根は白でジプリのおしら様…

「GHIBLI」はサハラ砂漠に吹く熱風を意味するイタリア語。イタリア軍用偵察機の名前でもあり、飛行機マニアの宮崎監督が命名」とAIの答。

「あっち」と教える大根、「こっち」と教えるAI人工知能。

…脳内に一茶とジプリ師走空…

ジプリ・ネコバスのナンバープレートにも心が and だ。

…と・10・6バストトロ♪トトロと冬音色… (寛)

寛ぎコラム



ポルール通信 2024年12月

美容室ポルール12月1日 第212号



1月のカレンダー



日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
年明け7日より営業させていただきます						
5	6 6日までお休みを いただきます	7 新年初 開店	8	9	10	11
12 二十歳の集いのお客 様と一般のお客様は 15時までご予約承 ります	13 二十歳の集いのお 客様のみご予約承 ります	14 (休)	15	16	17	18
19	20 (休)	21 (休)	22	23	24	25
26	27	28 (休)	29	30	31	

今月のお知らせ 年末フェア☆店販商品が 10%~20%割引でお買い求めいただけます。

おすすめ商品は ReFa のビューティックリセッター。顔がキュッとみえる「ひし形シルエット」を誰でも再現可能にした軽量スティック型ドライヤーです。トップはふんわり、毛先はしっとりまとまって小顔効果※を引き出すスタイルを実現する、3つのアタッチメント。1ドライ、2スカルプ、3カールブラシまた、内蔵センサーで環境温度を感知する「センシングプログラム」で頭皮と毛先、それぞれに合わせた温度でアプローチ。髪をダメージから守ります。イオナイザーとセラミックコーティングの融合技術で生み出す「ハイドロイオン」を発生します。



冬の髪の乾燥に

ヘアコラム

スタイリストによるコラム

記事：井上かおり



冬の乾燥した季節髪の毛はパサつきがちになることに気が付きます。

空気の乾燥で、髪から水分が蒸発しやすく、高温のシャワーで洗うと保湿に必要な皮脂がとれてしまい、頭皮も乾燥する原因にもなります。

また静電気で絡まりやすく、皮脂が少なくフケも出やすい状態にもなってしまいます。

エアコンの部屋にいることが多いことも乾燥する原因です。

髪の毛がまとまりづらくなります。

その対策のヘアケアとして、ドライヤーの前に保湿オイルをつけてから乾かすこともおすすめです。

サロンでのトリートメントを定期的にケアすることでダメージを抑えることができるのでぜひご利用ください。

酸熱トリートメントとは、弱酸性の髪の毛に強酸性のトリートメントで髪の毛の内部にしっかりと成分を補強し、アイロンの熱で閉じ込めて髪質の改善を目的としたトリートメントです。

通常のトリートメントよりも髪の毛の内部に、しっかりと成分が入りトリートメントの持続期間も、1-2ヶ月続きます。

継続していくとサラサラ感、ツヤ、ハリが持続しクセや、広がりやすい髪質の改善をすることができます。

毎日アイロンでクセを伸ばすなど髪へのダメージも蓄積され、毛先が、固くなってしまい、扱いづらいということもあります。

酸熱トリートメント（サブリミック）で髪の毛のダメージ、うねり、広がりをおさえ、ツヤのあるサラサラな扱いやすい髪へ。毎日のお手入れもラクになります。さらに冬の頭皮の乾燥も気をつけておきたいですね。

頭皮用のローションで、保湿し潤いを保ち乾燥から守ることが大切です。

お肌と同様に、頭皮、髪の毛のケアも重点的にしていきましょう。



緑の葉っぱのパン



2024年10月20日初版

文 最上 一平 絵 北見 葉胡 新日本出版社 おすすめの絵本

かしの木の枝にとまったハトはつぶやいた。

「なんとしたことだろう」

橋は、橋脚が川面に突き出ているだけ。壊れた橋の下には、がれきや木材などで人がひとり、やっと通れるくらいの間に合わせの橋がかけられていた。

学校も、病院も、民家も砲撃やミサイル攻撃にあい、人々は戦火が迫る中、州境のこの橋にたどり着いた。

かしの木の下、女の子の声がする。

「お父さん、お父さんも一緒に行こう。お母さんとわたしと、みんないっしょがいいよ」

「お父さんもそうしたいけれど、お父さんはのこって、この街を守らなくちゃいけないんだ」

女の子のお父さんはおいしいパンを焼くのが生きがいのパン職人だった。やっと夢をかなえて、お店をもって間もなく、爆撃にあってしまった。

お父さんは別れの時が近づくなか、スマホをかざして、家族三人の写真を撮ろうとする。

「さあ、笑って、笑って」

女の子は笑えずに、しめった土を集めてこねてまるく形を整えた。お父さんは、空からふってきた葉っぱをキャッチすると、その上にのせた。「緑の葉っぱのパンだ」

「わたし、緑の葉っぱのパンを焼いて、世界中の人に食べてもらおうよ」

お母さんと女の子はあぶない橋を渡り始め、お父さんは心配そうにかしの木の下で見つめていた。渡りきって、お互い手を振りあった後…



別れの場面、その後でさらに悲しい事実を知る。生き別れの悲しみを上回る、信じたくない事実を。

お父さんは、二人が渡りきった後で、消えていく。だんだん透明になって消えてしまう。

お父さんは夢を奪われ、命も奪われてしまった。お父さんは死んでもなお、妻と娘を守ろうとし、街を守ろうとしていた。戦争という愚行を繰り返す人間。人の命の尊さを知らない独裁者。地球上で今、この時も戦火の中で逃げ惑う人々。

ロシアによる軍事侵攻が続くウクライナに想いを馳せる。

命以上に大切なものなんてない。ひとりでも多くの人が独裁者の洗脳から目を覚まして、この愚かな戦争を止める意思を持ってほしい。

女の子の心が描く、夢はカラフルで明るく楽しい。その夢を叶えられる幸せな未来が1日も早く来ることを祈らずにはいられない。女の子が力強く立ち上がる時を。

トモトモ

Copyright© 2024 Beauty Salon POLOUR. All Rights Reserved.

